(明治四十一年十二月五日第三種郵便物認可)（日刊）日曜祭日の翌日休刊 明治四十二年十月廿七日（水曜日） 第二百四十九號（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

●毒酒毒醬油

稅金全額の拂戾しを受け鐵道大割引特別取扱ひの遞送に藉て輸入し來れる日本酒及び醬油の韓國に於て太だ不廉なるを攻むるは未だし、毒藥混入の跡歷々たるものありと聞くに及んでは其の釀造家の不埒を攻め其取締りの緩漫を訝めざるべからず、嚮に一たび灘宅釀酒所外一箇所に於てホルマリン混入の惡酒發見せられてより母國に於ては痛く危惧の念に驅られ一般世人の注意を喚起したるも开は只偶々其の筋の檢擧に顯はれたるに過ぎずして吾人の知る所を以てすれば其の釀造の殆ど過半は該毒藥混入の其れなるが如し、吾人は之を當地酒醬油小賣商人の言に聞く、曰く何等其の筋の取締りなし、混成酒を以て暴利を貪るは此の地に限る、惡酒を混成する勢强烈なる防腐劑を用ゆるは敢の免かれざる所なりと、試みに

▲毒藥ホルマリン

の混入量を問へば一石に四乃至五瓦と答ふ何ぞ其れ亂暴の甚だしき、戰慄せざらんとするも得ず、我國に於て酒類の防腐劑として公許せられたるものは只サリチルサンあるのみ、其の量に至つては僅かに一溫に限きらる、而かして此の小量の防腐劑にして尚ほ且つ其の無害ならざるの故を以て遠く將に其の禁止を見んとす、此の際に當て暴にも劇烈なる毒藥サリチルサンを用ゆる釀造家の現はれたりと聞くさへ空恐ろしきに韓國に於ける小賣り酒醬油の殆ど過半が此の恐ろしき毒藥混入の其れなりと聞かば誰か驚かざるものあらんや、然も或は其の誇張の言なりとして却て疑ふものあらんも、下等の品種にして何且つ長く之を貯ふるも未だ曾て腐敗し黴を生ずることなきを知らばサテはと思ひ當るべし、有毒ホルマリンの混入せらるゝ既に此の如し、而して尚ほ一の有毒物の混入せらるゝものあり、

▲サッカリン

是れなり、藥用の外サッカリンを菓子其他飲食物に混和することは是れ亦た邦國法律の禁ずる所なるは人の知悉する所なり、而かして韓國に於ける醬油(時としては酒)は不思議にも盛に之を用ひて其の味を胡魔化して了しわるを見る、一方ホルマリンを以て腐敗を防ぎ一方此のサッカリンを以て其の味を胡魔化して坊間に鬻ぐ、暴も亦た甚だしくして世人悟るなし、何等の危險ぞ、之を咎むる之を鬻ぐものを罪すべきか、之を罪するを需要者の迂愚に附し了して不關焉たるべきか、之を造る者を咎むべきか、抑た亦た之を造り之を鬻く其の罪元より許すべからず之を購ひ之を飲むものゝ愚も亦た嗤ふべしと雖ども吾人は

▲官廳取締の不備

に驚き切に其の嚴罰を要請せざるを得ず、然れども今日之を官廳の不完全にして役員の無能に待つは甚だ以て心許なし、宜しく公衆に訴へて此等奸商罪惡の擧に出でずんば終には人の酒醬油を惶るゝ毒藥と一般にして上戶徒らに途遭麴車口流涎に至るべきはまだしも轉ては彼の植民地土民を全滅せんと期したるビ氏のラム酒に反し我が奮鬪事に當りつゝある出稼者をして病羸の民たらしめ延ては我政府の植民政策に一頓挫を來たさずんばやまざるに至るべし、吾人が此の不埒を公衆に告げて世人の注意を喚起せんと欲す所以のものは實に患廣の此點にあり、豈に徒に奸商を懲らすに止まら

兩鐵道期成請願書

我政府は客月□日の閣議に於て韓國京元、三南兩鐵道の敷設の議を決し明年度豫算に計上せられたりと聞く是れ對韓政策上最も機宜に適したるの處置として在韓邦人一同の歡喜措く能はざる所に有之候夫れ京元鐵道の敷設は政治上並に軍事上一日も忽緒に付すべからざると同時に黃海と日本海との貿易に新生命を與へ彼此相通じ以て東亞の通商に資する偉大なるものあり又三南鐵道の布設は我が農事經營者が早くより着眼して現に多大の投資を試み居れる三南一帶の產業を發達せしむる上に於て最も必要とする所に有之候且つ目下多大の國帑を費して討伐に從事しつゝある暴徒の如きも常に鐵道沿線を避け交通不便の地方に出沒し若し幸にして兩線の敷設を見ば彼等は自から屏息するに至るべしと信じ候右の次第に付兩線の敷設は□□貿易、殖民上將た行政上最も緊□の事と存じ候間來るべき議會に於て是非共本案を通過せしめ在留民多年の宿望を貫徹せしめ候樣御盡力を仰ぎ度此段請願候也

明治四十二年十月　日

京城日本人商業會議所
横貫鐵道龍山期成會
仁川日本人商業會議所
木浦日本人商業會議所
群山同上



第十八席　伯山改　紳田松鯉口演

一日晴明、時の攝政藤原道長の邸に參り「今日拙者卜筮致候所攝政ゝ御家に怪しき事あり、御注意あるべし」と申上げた、道長門を閉ぢて物忌してある所、暮に及んで門を叩くものがある、門番が「何事にて候」と尋ねると、和州より瓜を獻上の使者にて候との答へ、依つて門を開いて之れを入れた、時に晴明、大醫重雅、僧勤修其座にあつたが道長、晴明に向つて「差支なきや如何」晴「イヤ此瓜の中に毒がありまするに依つて喰ふことはなりませぬ」斯く申上げると僧勤修が「拙僧法力を以て此の許多の瓜の中より毒ある瓜を出して御覧に入れん」と呪文を唱へて加持祈禱すると、怪しむべし多くの瓜のうちから一つの大なる瓜がコロ〳〵と轉げ出た、大醫重雅、袂より一つの針を出して瓜に刺したが瓜の中より血流れ出でたる故瓜を割つて見ると、中に毒蛇が居て其の眼に針が刺つて居た、世間の人々も今更ながら此三人の術精しきに驚嘆いたしました、然るに茲に播磨國に智德法師といふ人があつた、是れもなか〳〵の陰陽師で凡者ではない、或る時筑紫より都へ上る船へ多くの物を積んで明石の沖を過ぎた時海賊來つて、其船に飛乘り、船頭共を斬殺す、荷主と船頭一人だけ海に飛入つて辛き命を助かり陸に上つて泣いて居た、其所へ智德來つて何故に泣くぞと問ふたスルと彼もの等「筑紫より年貢の物を以て都へ上る途中昨日海賊に遇ふて云々」と語る、智德法師聞いて「而らば拙僧が其海賊を搦め取つて遣るべし」と、小舟に彼の船主と共に打乘り、沖に出で海上に船を浮べて水上に物を書き、呪を唱へて歸つて來た、



それから七日程經つて何處ともなく、浪に漂ひたる船がポカリ〳〵と岸邊へ漂着した、乘れる人は皆物に醉ふ如くであつたが、是は智德が呪文に依つて先きの海賊が醉たるが如くになつて船が自然と岸邊へ漂着したのである、そこで智德は海賊を戒め先に盜し物品を盡く船主に返して遣つた、其位術に長けて居る智德法師が、晴明の術を試めしてやらうと云ふので京都へやつて來た、晴明豫め之れを知つて、西洞院なる己れの屋敷へ貼札をして「今日西國より法師來る汝の術未だ精しからず我れより汝を試めさん」と書いてある、法師大いに驚き、豫め我れの來るを知りしかと、佇立して居ると一人の老翁杖に縋りて彼方より來り法師を熟々と見て「ヤヨ、法師」と聲を掛ける、智德心に驚いて「アヽ御身は安陪氏で在すか」晴明から〳〵と笑ひ「御身久しく陰陽天文の事を知れど、まだ〳〵其妙奧に達せず其貼札に心を奪はれて我れの彼方より來るを知らず、我れより聲を掛くるまでも心付かざりしとは迂濶なり」と云はれて、智德法師大いに感じ夫れより晴明の門人となつたといふ事であります、實に晴明の如きは古今稀なる陰陽師にして又天文卜筮の術も其妙奧に達すれば天地の變化人事百般何事でも豫め知ることが出來ると見ねます、安陪易說は早速爲義の招きに應じて六條の館へ參り、直ちに筮竹を執つて占ひましたが、易の面は火天大有の二爻變じて離爲火となる、易說說いて曰く「火天大有とは太陽天に輝くの象、此鳥長く悠々と天を翔りしなるべし、變じて離となる、離ははなるなり、方位は南なり、我が本土より離れて南の外れ琉球の近邊に翔り居るならん」之れを聞かれて爲義は大いに望みを失なつた爲「此の近所に居つてさへ天を飛ぶ鳥を探かすと云ふことはいと難きことである、然るに琉球國まで赴くことは容易の業ではない」と改めて易說に向ひ爲「此の鶴を探し求むることが出來るや否や、今一應占ふて頂きたいものでござる」易「イヤ改めて占ふまでもござらん、離は離れて又合ふ意味でござる此の鶴一端人の手を離れても又再び捕獲することの出來ぬことはござらん、早速琉球國に人を御遣しになり探し求められなば、百日の內に必ず獲へ得ることでござらう」爲義は少しく安堵の思ひをなされ直ちに成菩提院の御所へ赴きました

京城新報

工業傳習所に望む
（輸出品の製作に力を注げ）

工業傳習所は顧問並技師及び職員の盡力により好成蹟を擧げつゝあり、從來韓國は農業本位にして工藝品に至りては頗る幼稚也、工業は只是れ國民の日常必要なるものを僅に手藝を以て製するに過ぎず、而して外來の文明に接觸するに從ひ、自國産の不完全なるものよりも輸入品の簡便を珍重し以て其缺を補はんとす、玆に於て輸入は増加し來るも、我より之に對して輸出すべきものなし、唯米穀の輸出を以て漸くに之に對するのみ、然れども僅々たる農産物のみにては常に輸入は輸出に超過す、是を以て輸出を増加するの工夫なかるべからず茲に於てか工業を奬勵して輸入を防ぐと共に輸出品の製作をなさしめざる可らず、工業傳習所は之が爲に設けられたるものにして、之れ韓國工業發達の機關として余輩は大に期待せんとす。

韓國には從來工藝品として殆ど見るべきものなしと雖も、至細に之を點檢すれば決して絶無とは云ふ可らず、只其規模余りに微小にして一國の産業とするに足らざるのみ、故に此等のものに對して其製作に改善を加へ規模を大にすれば輸出品となるべきものなきに非ず、假令ば金屬製の細工の如きは比較的巧緻なるものあり、銀細工の如き、眞鍮細工の如き、或は石細工の如きも之に對して美術的意匠を施し、更に器械力を加ふれば美術工藝品として輸出品とするに足るものあり、亦南韓地方に於ては竹細工の巧なるものあり、若し之に改善を加へて歐米人の嗜好に投ずるの工夫をなさしめば是亦一の輸出品たるに至るべし、織物に於ては南韓の木綿麻布は古來は國民の需用を充たしつゝありしも、外國木綿及其他の輸入品によりて壓倒せられて其製産は漸次減少し來れるも、是亦其製作に改善を加ふれば輸入の幾分を防ぐことを得べし、木綿麻布の製造に就ては當局者に於ても之を奬勵しつゝあるも、棉花の栽培盛なると共に機織業を盛にすれば輸入を防ぐと共に將來は却て輸出するに至るやも知る可らず、其他尚ほ輸出品とすべきもの少しとせざる也

工業傳習所は素より專ら之等の事に關して研究する所あるべし、只余輩が工業傳習所に望む所は輸入を防ぐの目的によりて工業の練習をなすと共に、大に輸出品の製作に就て研究せられんことにあり、換言すれば輸入防禦に偏することなく、輸出品製作に力を注ぎ兩々相對して國富の増進を計るべき也。

現在の韓國は農産國なれども只農産のみにては到底貿易の繁盛を見る能はず、工業を盛にして之を補はざる可らず、夫には輸出品製作は最も肝要なりとす、偶々平賀博士の來城を機として敢て所見を開陳す。

東京電報

▲統監秘書官の任命

前統監府間島派出所事務官篠田治策氏は統監秘書官四等に同楠野俊成氏は理事廳副理事官六等に任命せられたり（二十五日夜着）

▲一年志願兵入營數

十二月一日入營すべき一年志願兵の總數は二千九百八十四人にして昨年度より四十五名の增加に過ぎず（同上）

▲來年豫算の內示

明年度豫算內示會は來十一月中に議員の上京ある可きを以て多分十二月二十日頃ならんと

北京電報

▲獨淸大學の開校

淸人敎育の目的を以て獨逸が靑島に建設中なりし獨淸大學は此程落成したるを以て二十五日淸國官民を招待し盛大なる開校式を擧行したり（二十六日着電）

▲軍機大臣の任命

攝政王は那桐の熱心に主張したる端方を軍機處大臣に任命する件を遂に是認したり（同上）

奉天電報

▲藤公と總督會見

伊藤公と奉天總督とは二時間餘に渉れる會見を爲したり此結果日淸國交は一新せらる可しと豫期せらる（廿六日發）

雜報

●統監と地方警察
（所謂根本的大刷振）

各道警察部の大刷新は既に着々實行せられつゝあるが元來今回の改革は近く委任司法權の實施期に際し從來の陷力を振興せずんば到底完全に其運用を庶幾する能はざる爲め特に其必要を感じたるが故なり然れば過般召集の全道警察部長會議の如きは全く其試驗にして岡次官、松井局長の意中潜かに其適否を物色し遂に今回の結果を發現するものと目す而して既に發表せられたるは僅かに一二名に過ぎざるも尚ほ今明中に世人を驚動すべき一大更迭を見る可し其內容は機密に屬するを以て玆に詳記する能はざるも十三道の警察部長中依然存續するものは僅かに三名のみ同時に警部中にも大異動を行ひ新進有爲の材を拔擢して要路に登用すると共に考朽無能の輩は根本的に剔絶し既に其人選も確定し居れり則ち其結果過日試驗に及第したる巡査十二名を警部に任用し同時に四十余名の被免者及更迭を斷行すべし所謂今回の改革は從來中央部のみに重きを置かれ兎角地方警察行政は閑却せられたる爲め統監より嚴に之を促がされたる結果にして乃ち統監政治の地方に發動せる現象として之を見るを得べしと

●韓國の豫算に就て

國庫歲入に就ても年々內國稅及關稅を通じ約五分以上の增加を示し來たれるが內國稅の增加は財務の整理財源調査の結果にして來年度に於ても約三四十万圓關稅に在りて同く三四十萬の增加を得るならんが要するに精査の後には約百万圓位の增加を見るに至らん一面各部の提出豫算額は果して幾許に上るべきや未だ明かならざるも昨年に比し多大の增額あるべきは免れざる所なるべし而して歲入の增加は右の如くに止まり歲出の增加と伴はざるを以て各部の希望を容れんとするには是非とも借款に待たざるべからざるべく此等の解決は來月七八日頃歸任の豫定なる荒井次官を俟つべきは無論なるが何は統監府を通じて本國政府の命に俟たざるべからざる今日に於ては增減何れとも絶對に豫言し難しと某當局者は語れり



哈爾賓に於て遭難せる伊藤公爵

●無賃運送の制限

鐵道院及び韓國鐵道廳、大阪商船、南滿鐵道にては滿韓巡遊旅客の托送手荷物無賃輸送制限斤量左の通り各線所定により取扱ふべし

（線名）	（一等）	（二等）	（三等）
院廳線	一〇〇斤	六〇斤	三〇斤
大坂商船	一五〇斤	一二〇斤	六〇斤
南滿洲線	一〇〇斤	六〇斤	

●統監下仁の模樣

曾禰統監各大臣各參與官石井榊原兩少將其他の文武官一行は鈴木關稅總長事務取扱の主催に係る巡邏船觀覽の爲め昨日午前九時四十三分仁川驛着信夫理事官岩崎民長其他一般官民の出迎を受け腕車にて稅關波止場に至りデーシ號にて冲合に碇泊中なる光濟號に向ひ正午盛大なる午餐會を催ふされ巡邏船の進水及び射的競技等の餘興を一覽後午後二時三十分上陸鮮樓に一泊本日午前八時五分仁川驛發列車にて歸京する豫定なるが昨夜鮮樓に於て仁川の重なる官民は小規模なる歡迎會を開き民團よりは煙火二十發を打揚げて敬意を表し鮮魚を供したりと

●警察官の更迭發表

別項起草を了るや左の如く發表ありたり

平安南道警察部長 向田幸藏
京畿警察部長を命す
咸鏡南道警察部長 岡田宣壽
慶尙北道警察部長を命ず
慶尙北道警察部長 湯淺秀富
平南南道警察部長を命ず
黃海道警察部長 陣軍吉
咸鏡北道警察部長を命ず
釜山警察署長 渡邊素夫
江原道警察部長を命ず
江原道警察部長 今村鞆
內部警務局警務課勤務を命ず
木浦警察署長 市川信明
釜山警察署長を命ず
內部飜譯官兼警視 境喜明
內部警務局保安課勤務を命す

尚ほ引續き更迭を實行し其內依願免官となるものは數名ある由なり

●キ元帥と居留民

英國元帥キッチナー大將は本國を代表せる者にして我國にては皇室の貴賓として待遇する筈なれば當地の着發の際は居留民にても充分の敬意を表する爲め當日は本町に日英兩國旗を交叉し且つ烟花を打揚げ居留民及小中學生徒は南大門に送迎する筈なりと

●警務局の新組織

別項の如く各道警察部長の大更迭は本日發表し警視警部に對しては兩三日中全部發表せらるべき筈なるが其結果內部警務局の組織を變更し從來の警務課長及び保安課長の下に更に各警視一人宛を配屬せしむべしと

途等を要せず又乘車船券は船車通して一二三等の外旅客の希望に依り滊車二等滊船一等或は滊車三等滊船二等の各種をも發賣すと云ふ其取扱區間及海陸接續地點左の如し

一、釜山接續
廳（三浪津、馬山、大邱、金泉、大田、水原、永登浦、紐峴、仁川、龍山、南大門、西大門、開城、新幕、黃州、平壤、定州、新義州驛と
社（元山、城津、淸津、木浦、群山港、相互間
一、仁川接續
廳（前同（除紐峴、仁川）驛と
社、木浦、群山港、相互間

因に連帶取扱驛に於て滊船一、二等の乘車船券を發賣するに際しては豫め電報を以て滊船に於ける一、二等室の準備を打合すの必要ある由に付之等の旅客は前以て乘車驛々長に申込置く方便利ならん

●伊藤公爵暗殺さる

樞密院議長公爵伊藤博文氏は滿洲旅行中今朝ハルピンに於て朝鮮人數名の爲め狙擊せられ遂に薨去す（二十六日午後日韓電通至急報）

東京電報

▲三發共に命中す

伊藤公は三發の銃彈を受け何れも命中せり兇行韓人は直に捕へらる（廿六日午後發）

●昨日の大臣會議延期

昨二十六日は大臣會議及び參與官會議の開會の筈なりしも統監下仁の爲め今二十七日に延期したり尚は參與官會議は既報の如く來週より每火曜日より開會するに決せりと

●水道會社事件の其後

三浦理事官より大韓水道會社支配人バーハム氏に對する濁水を飮用させたる所謂精神的苦痛を與へし損害賠償二萬八千圓要求事件の其后を聞くにバーハム氏は前月二十六日より今月二十六日に至る水道栓使用料二千四百八十四圓及び今月二十七日より來月二十六日に至る同四千圓を差押へらるゝものと思料し過般契約當事者若林總監を訪ふて差押へ方に就き哀願する處ありたるに若林總監は之を聞きて以ての外の事とし權限外に屬することとなるを懇諭したればバーハム氏漸く安堵して引揚げたるが三浦理事官對バーハム氏の要償問題は未だ進行を見ると

●沿岸諸港と船車連絡

近來韓國內地一般の開發に伴ひ鐵道沿線と沿岸諸港との往來漸く頻繁を加へたるに付ては之等旅行者の便利を圖らむか爲統監府鐵道廳にては今回大坂商船會社と協定の上來る十一月一日より主要驛港間に於て旅客手小荷物の船車連絡輸送を開始する由運賃は廳社各線の所定額を併算したるもののみとし其以外海陸接續地に於ける手小荷物運

●キ元帥と英國總領事

キッチナー元帥入京に就き英國總領事は是非招宴を催したき希望あるも滯在時間の都合により到底其差繰を得がたきを以て統監府へ交涉し來りたるが同府にても折角吾國賓の入京なれば之に應ずる能はず同領事は之が爲めに非常に遺憾に思ひ居る居なり

●韓國武官大演習陪觀

來る十一月擧行の日本陸軍大演習陪觀の爲め韓國政府は左の諸氏に出張を命じたり
陸軍步兵副領 全永憲、陸軍步兵正尉 與進永、同 白昌基、同副尉 鄭雲鴻

●平壤炭鑛の現況

平壤無烟炭坑は我海軍の需要に應する爲め……ものなれば敢べて施設に困難を見ざるべく故に至急案を具して其計畫を進捗するに到る可く而して煉炭機械は日露戰役前宮內府の三十萬餘圓の該機械を購入し仁川へ陸揚げせしまゝ戰役の爲に放棄せられありたるものを今回同地に輸送し使用する筈なりと云ふ

●敍任辭令

左の通り辭令ありたり
補釜山區裁判所判事（五級俸） 土居
補釜山區裁判所判事（七級俸） 池田倪夫
補海州區裁判所判事（八級俸） 高橋吉三郎
任理事廳副理事官高等官六等一級俸 淸津在勤を命ず
統監府技師 岩井長三
營林廠へ出張の序を以て平壤へ命出張

●龍山通信（廿六日支局發）

▲防疫慰勞會 一時猖獗を極めたる龍山の虎疫も愈々終熄を告げたるを以て終始白刃の下を潜るにも增して云はん方なき危險の巷に出入し殆んど不眠不休の精勵もて防疫の衝に當りたる龍山民團吏員、同警察署員、同憲兵分遣所員等は來る二十九日龍山八景園に於て慰勞會を開催する筈なりと

▲キ元帥見送 南滿鐵道會社は滿野理事に秘書役一名を附しキ元帥見送りの爲め京城迄隨伴せしむる旨鐵道廳に通知あり

▲滿韓視察團 一昨二十五日滿韓視察團体三十五名鐵道院中央西線岡谷驛を出發せし由なるが其の旅行日程は左の如し
二十五日岡谷驛出發、二十七日午前十一時下關着、二十九日午前八時三十分釜山着同地一泊、三十日午前十時四十分釜山發、同日午後八時十分南大門驛着入京、三十一日滯在、十一月一日午前九時十分京城發、午後平壤着、二日滯在、三日平壤發新義州安東縣を經て六日奉天着、……り營口旅順を視察し大連より乘船、二十日午後神戶上陸、二十二日新橋着、二十四日岡谷驛着の豫定

●京城會議所の決議

京城商業會議所にては一昨二十五日午後七時より臨時總會を開き京元、三南兩鐵道敷設に關する對議會運動策に付き協議したる結果會議所議員、民團議員、各銀行、會社發起となり期成同盟會を組織し大々的運動を開始すべく決議したり尙中村會頭、曾我副會頭は民團に向ひ昨夜交涉を爲したる筈

●群山木浦兩民長官撰

群山民長阪上貞信、木浦民長高根信禮兩氏は共に任期滿了せしが今回更に官撰せらる

●內部豫算會議の終了

過般來開會中なりし內部豫算會議は此程愈々終了し目下會計課に於て取纏中なれば兩三日中には度支部に廻送するに至るべしと

●各地方官衙の大肅淸

未だ具體的に成案として發表するを得ざるも近々の中各地方官に大交迭を斷行し以て地方官衙の大肅淸を爲すべしと傳へらる

●地方費支辨官吏待遇

從來地方費に依り支辨されたる官吏は國庫支辨の官吏と其待遇を異にせしが今回地方行政振興と共に同樣取扱と爲す事となれり

●地方會計事務の勵行

地方に於ける會計事務は直接統督の行屆かざるに乘じて非違の行動を爲すもの少からざりしが今回地方行政刷新の第一着として先づ嚴重に會計事務の勵行を爲す由なりと

●南大門市場拂下運動

鐘路陸聯會社、東洋拓殖會社、一進會員其他の團体は目下其筋へ向つて南大門內朝市場拂下運動を爲しつゝあるが拂下請願要旨は完全なる倉庫を建設し以て倉敷料を徵收し金融機關を設け商品を擔保に金員を貸與し以て金融の圓滑を期すと云ふにあるも營利の目的に出でたるや云ふ迄もなしと

●前學相の通津行

前學部大臣李載崐氏は昨日曾禰統監一行と共に下仁し仁川警察署より護衛を得通津へ墓參の爲め赴きたり

●天長節と仁川港

仁川官民は來る天長節には仁川俱樂部にて祝賀會を開く筈

●脇坂大尉の入京 滿洲獨立守備陸軍步兵大尉脇阪寬氏は廿五日京城ホテル投宿

●伊達記者の來着 東京國民新聞記者伊達源一郎氏は廿五日着京京城ホテルへ投宿

●和田西郎氏出發 豫て滯京中なりし馬山副理事官の同氏は廿五日任地へ向け出發

●判事藤本永吉氏 滿州區裁判所判事の同氏は一昨二十五日入京旭館へ投宿したり

近事片々

▲伊公と露國藏相との會見は存外列國の注目を惹く外國新聞記者亦た哈爾賓に向ふ
▲日露の親善は極東平和の鍵伊公露相の會見は此點に於て効果あらむは何人も認む
▲會見の要目は何ぞとは列國の注視する所されど唯日露相互の意志を疏通するのみ
▲例の錦齊鐵道に對する打合せならん抔の下馬評は要するに一の推想に過ぎざる也
▲總督錫良と伊公の會見に於て密談長きに亘ると何事の密談かと在留外人等刮目す
▲伊公と露相の會見及錫良との密談抔逆種々揣摩臆說するも帝國の方針は極て明白
▲希くは會見も密談も總て公表し斷々然として帝國の經營を進めよ是れ共通の利益
▲林政は水田保護の基韓國も漸次殖林しつゝあれば將來は河水涸渇の憂なきに至らむ
▲殖林に就ては當局者に夫々適當の植苗をなし居らむも其施設の緩急を誤る事勿れ
▲石油發動機巡邏船見物の爲に統監以下各大官連下仁す韓國は總てに何事も仰山也
▲統監には仁川に一泊せらると仁川在留民は例により統監歡迎會を開くとは面黑し
▲仁川の有志は種々の問題で屢々統監を訪問するも兎角に要領を得ずとの事を聞く
▲歡迎を以て今度は一ッ築港問題即決を迫て見る積りか夫とも亦例の詩文でも頂くか
▲世界は今や帝國主義と社會主義との衝突時代たらんか英獨佛露皆此傾向を現出す
▲畢竟是れ軍備過大より生み出せる傾向なしとせず是が調和は軍備制限の外になし
▲英國現內閣の根底比較的に堅きも現閣の社會政策が國民の輿論と合するが爲にや
▲獨逸に年々社會黨議員の增加し來るも之れ軍費過大國民負擔に苦しむの結果のみ
▲玆に於て此極端と極端とを調和するは軍備制限にあり制限の聲は列國間に起らむ
▲殖民政策は本世紀の大勢なるも之が爲に無限の軍備擴張は到底國民は堪へざる也
▲英蘭土銀行は亦も利子を引上五朱と

平壤 十
大 初 氷 本 年

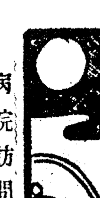
日刊（月曜及祭日翌日休刊） 明治四十二年十月廿七日 京城新報 （水曜日） 第二百四十九號 （三）

…本炭無烟炭坑は我海軍の需要に應ずる爲め近…一大擴張を行ふ由なるが右に要する經費は素より特別會計として損益を計算する可く而して煉炭機械は日露戰役前宮内府の出資に依りて成立せる佛人某の豐阜會社ありて當時一大規模の下に經營を企て價格…のを今回同地に輸送し使用する筈なりと云ふ同採炭狀況は昨年來の採掘現在炭二萬噸と本年内に五万五千噸を採掘する豫定なり

補釜山區裁判所判事（七級俸） 池田…
補海州區裁判所判事（八級俸） 高橋吉三郎
統監府臨時間島派出所事務官 篠田治策
任統監秘書官高等官四等二級俸 正七位勳四等 楢野俊成

●韓國各地の初霜氷表 營林廠へ出張の序を以て…

	本年	昨年	最低氣温
初霜 京城	十月五日	早七日	七、四
初氷 京城	十月廿三日	早十五日	
大邱	十月廿四日	早十日	
…	十月二十日		



病院訪問記（五） 藤子

菅醫院

昨日正午過ぎ小糠を散す樣な秋雨を斜に衝いて西小門通りの菅醫院に驅付けた丁度患者の途切れた時分で早速院長と診察室にて對座することが出來た院長菅恒氏は濟生學舍出身で久しく東京駿河臺の濱田玄達博士經營の産科婦人科病院で診察に從事して居たが一昨年五月渡韓して京城南大門外に京城醫院を設立し後都合あつて現今の處に開業した相な同院では專門的ではなく一般患者を診察して居る目下患者は一日平均

六七十人はあるとのこと京城の公私の病院を通じて患者の一番多いのは花柳病だそうな概して殖民地や新開地には花柳病が多いのは殆んど原則の樣になつてゐるそれは例の醜業婦軍が襲來して其土地の風俗を亂すからだ内地でも未だ開墾中なる北海道や臺灣邊では他の患者よりも花柳病患者が多數を占めて居るのは爭ふ可らざる現象だ、清韓の新移民地では花柳病專門の病院が他の病院に比較して數倍の繁昌を極めつゝあるのに徴しても如何に賣春婦の跋扈が酷しきかゞ明かであらう韓人患者は大抵漢法醫の診察を受けて日本人醫師の病院に來るのは極めて稀れである、これは邦人醫師を信用せぬと云ふ譯では決して無いけれども渠等の生活程度の低き到底日本人醫師に掛つて高價の施療金を支拂ふことが全然不可能なるに起因するのである漢法醫に掛れば非常に療治料が安くて宜いからだ近頃大韓醫院で韓人の貧窮者には無料診察を爲し藥價なども半額で施して居る、その割合に韓人の來診患者の比較的尠いのは畢竟貧窮患者等を等閑に診察して幾分か

侮辱的態度があると云ふ醫師としては誠に怪しからぬ風說があるけれども遽に信憑するに足らぬ余輩を以て觀れば要するに同院が其主義に反したる方法を取つては居ないか兎に角遺憾であると語られた、漢法醫などは病患者の診察は唯患者の脈を一應見て施藥して居る實に危險極まる話だ内科などは患者の容體を聞いて下痢病なれば止まる藥を與へなどして渠等は是以上療法を知らぬ、最も進步したる今日の醫學界から考へたなら危險と謂うか將た大膽と謂うか實に滑稽極まると微笑を漏らしてゐた、京城の警察では市内の料理屋飲食店の酌婦の檢梅方針などは一定統一して居ない現に西部警察署では毎月三四回管内の酌婦の檢梅を執行してゐるが南部警察署では嘗て一回執行したのみである、酌婦の檢梅と謂うても唯局部の外面に甚しき異常なき限りは強いて治療を命せない位の程度で診察して居るからこれを見ても

花柳病者の多い原因は知れるのだが警察にては淫賣婦として渠等を許したる譯ではなく酌婦として料理屋なり飲食店なりに奉公して居る以上深く立入る譯には行かぬ所謂公然の秘密として默許してゐる次第だ京城市内で開院中の邦人醫師中韓語の出來るものは殆んど無いといふて宜しい若し韓語に曉通せし醫師ありとすれば該醫師は他の醫師に比して來診患者の多くなるのは事實で今後益々醫師の韓語熟達の必要を認めて來た譯です

●大木戸横綱問題

▲日下開山の相場下落

大坂相撲協會が角力司吉田追風に向ひ大木戸森右衛門に對し横綱免許を請願せしに對し同家にては東京方の加判を必要として故實門人となしたるのみにて横綱を授けざりし爲め端なくも衝突を惹起し大阪協會は斷然吉田家と手を切り獨立にて大木戸に横綱を授くるに決し今や天下の物笑ひとなり居れるが之れに就き某相撲通の語る處に依れば、元來横綱は日の下開山にして當時天下に並びなき猛者に授くるが至當にて一時東京相撲に大砲、常陸山、梅ケ谷の三人に許したるが如きは抑もお下開山の相場の下落したる者にて相撲道初まつての珍とすべき事なるが、現今の梅、常陸は實に寛政時代の谷風、小野川以上と云ふべき豪力士なれば先づ宜しとするも大木戸に横綱を授くるが如きは以ての外なりとす、彼れの力量技術、東京の大關太刀駒以下にして西の海にも及ばざるべく、玉椿、鳳の如き曲物或は高見山、大の川等の精悍なる力士に當らば必勝は期す可からず曩きに京都の合併相撲にて梅、駒、太刀等が花を持たしたるも之れとて勝ちしに非らず漸く引分を預りを爲したるのみ、大關と引分けを取りしとて横綱の資格ありとは云へず若し彼れが横綱を張る資格ありとせば東京の太刀、駒乃至國見も優に横綱たるを得べし兎に角近々九州博多にて常陸山一行と合併興行すると云へば技倆は立處に試驗せらるべく、足傷治せざる國見はいざ知らず常陸、太刀は勿論高見山、鳳にも或は勝能はざるべし云々

豫告

本社は南大門より本町八丁目に至る各戸に就き不景氣挽回に關する意見を聽き之を簡單に綴り連日の紙上に紹介せんとす、此は頗る實益あると共に又頗る興味あることゝ信ずされば各戸の諸君は社員の往訪に對し遠慮なく意見を瀝らされんことを希望す

京城新報社編輯局

●月を讀める文學藝妓

▲井門樓本店鶴香拍子

さなきだに思ひ出で多き秋の月況して女心の異郷の空に獨り淋しくこの月に對する苦界の身其胸裡や如何あらむ茲に當地は井門本店にツイ先頃現はれた花の都は江戸の育ち其名も目出度き鶴香拍子が稼業柄にも似合はぬ優しき心根を月に事寄せて認めし水莖の跡讀むだに麗はしく將た同情すべき節あれば密と這に御披露仕らん

▲月よ● 鶴香認む

オヽ月よ汝月や昔の月ならむ……去るにても殊に冷瓏なる今宵の月、あゝ何が故に今宵わけて妾が袖を照す事の麗はしき？、淒寥な月？月や昔の月ならめ唯妾が心の昔のそれにあらぬにや、妾正しき心もて汝に語らむ、月よ若し滿月に誇む折來るとも例令弦形に疑る時來らむとも其麗はしき光と美しき輝とは長なへに盡きる勿れ、月清き月よ妾は汝の皎々たる光輝に照さるゝ折巳而唯高潔なり誠なり去れば希くは月よ妾が弱きこの身を憐めよ而して照らせ救へ俗界の惡魔襲ひ來らむ折妾に味方し妾を鼓舞し妾をして勵ましむるもの果た誰かあらむ、あゝ妾が愛する清き月よ、妾は今より苦界に掉し荒き波猛き濤と戰はむ、幸に汝が光と輝は永劫に妾が前途の航路を照らせ妾は生以て希ふは唯是のみ、あゝいざさらば妾が最愛の月よ……

假名文字は聊か漢字に訂正したる處あるも其麗はしき普通文學藝妓と稱する輩の者に非らずとは記者の取持ちこの鶴香拍子は目下中檢番にて全盛を極めつゝある井門本店政子拍子の義妹なりとか

●三面辭令

神奈川縣平民丹治ふゆ（二）は二ケ年間百六十五圓にて藝名桃太と名乘り玉の家より▲横濱市生れ笠原くわ（二）は前身は同地の應生樓で羽衣とて怪腕を振ひしが今般三箇年間三百七十圓にて色香と改名して皆春樓に顯はれ▲同じく横濱生れ川口いと（二）は以前横濱遊廓神風樓で唐歌と名乘りしがこれも牡丹と變名して皆春樓に▲千葉縣平民荒木つね（二）は三箇年間二百三十圓にて玉の家に抱へられ藝名蔦と稱し▲神奈川縣平民並木さき（二）は三箇年間三百五十圓にて玉の家に綠と名乘を揚げ▲神奈川縣平民内藤とく（二）は花子と稱して三ケ年三百圓の精約でこれも玉の家へ▲横濱生れ神谷たつ（二）と云ふ中婆は横濱で小蝶といひ鼻下長連の千人切をせし經歷ある頗る付の阿婆摺なるが二ケ年間たつた百六十五圓で可睨と稱し玉の家より打て出で▲神奈川縣平民鈴木くに（二）は三ケ年間大枚五百圓にて皆春樓に身を沈め米松と名乘り▲横濱生れ高橋わき（二）は錦と名乘り三ケ年三百圓で玉の家へ抱へられ何れも廿五日付を以て認許可ありたり

●盜品らしき提灯

京城永樂町三丁目二十番戸立花秀秋は同町二丁目韓八々力車駐車場車夫安福同（二）を一昨日南部署に連れ來り申立てる樣此奴が所持の提灯は自分の知人龍山本町通り高島日生の所有なることは其紋所及び高島なる文字の記入しあるを以て明瞭なり依て或は盜品にはあらざるかと思料して同行取調方を願出でたりとの事に同韓人に就て尋問せしに同人は唯某より買ひ求めたる旨申立てたるも前後怪しき廉あれば尚引續き取調べ中

●歌舞伎座の好評

▲連夜滿員札を掲ぐ

連日大入を占め居れる旭町歌舞伎座に開演中の活動寫眞は當地にては曾て見ざる長尺物多きが中にも「悲劇松風村雨」は最も呼物となり聲色の名手土屋松翠が北浦家の裏庭で木下吉之助優の幸子と高田直の須磨子とを巧みに遣ひ分け觀者をして袖を絞らすに至るは流石に甘いもの、又喜多村緑郎優の美代子も甘く瀟寺遊散の場で『惚れられて腹が立つなら今後の世には程よく生れて來ぬがよい』と都々逸を唄ふ處など割れる如き喝采で歌自慢の喜多村優以上と受取れたり、尚ほ一座の花形秋月歌子孃の彩色美人モデルは頗る美麗にして眞に恍惚たらしむ此外赤垣源藏琵琶歌坏頗る觀物なるべし

●女ゆゑの摑合ひ 仁川咨洞居住洪明俊と云ふは一昨日内洞に於て下らぬ女の事より永宗島生れの張明俊と喧嘩を初め大道に於て摑合ひを初めたるが警官出張双方を仁川署に引致して說諭の上放還したりと

●金錢を遺失す 仁川寺町二丁目の新宮光之進と云ふは一昨夜新町より京町に至る道路に於て金五圓廿三錢を遺失したる旨其筋に屆出でたり

●一昨夜の新町 遊廓の色餓鬼は總計八十七人にて此散財額四百七十六圓廿三錢也

龍山珍報

▲官舍に見舞 桃山遊廓相生樓が抱ゆ娼妓住の江さいふは二十五日警察に屆けて曰く鐵道官舍を見舞の爲め外出▲幽靈の女郎買 嚴頭の感を遺して派手な死態の型を命の惜しう無い人々に示したる藤村操が今京城本町一丁目に在り一昨二十五日の夜フワリ〳〵と魂遊び桃山に浮れ込みて日曜樓に登り東京さて之れも人間には少々縁遠き面相の女を敵娼に一夜を遊び明して旭の昇る頃スートと消ねて無くなれりとはハテ面妖ナ

●虎の皮と警察官の關係 由來虎の皮と警察官と盜賊とは切つても切れぬ關係があると見ゆる、曩きに呼子警視は虎の皮を盜まれ次いで貝警視副監其の難わり今や亦若林總監同樣の災難があつた相だが之れで警察官虎の皮盜難の三副對ちや

吉凶鏡

本町五丁目 三一館判斷

十月廿七日舊九月十四日四綠佛滅庚申ひらく△一白●冶金鑛山の業に凶其外平靜△二黒●誘惑に陷るなかれ取引交際賣買に注意すべし△三碧●舊常を守るべし轉易更改の事凶効なし音信により痛心あらん△四綠●衝突及斷鰤あり交際上業務上留意すべし△五黃●盜害酒色の破れ注意すべし精算決算の事紛爭起らん△六白●創始改變の事凶旅行見合すべし盜害防ぐべし△七赤●類勢の日とす戒飭すべし紛爭酒色愼しむべし創始改易凶△八白●暴言又は暴行を避くべし尙長上より叱責若くは戒飭にあふあり△九紫●福祿の日とす利潤を得又は勢威を增進するあり右は概括的判斷なり各人格別に付ては直接に同館の鑑定を請はる可し



平民文庫

▲本町通りは實に狹い狹いけれども此の頃の樣な人通りならも少し狹くとも宜しい、何うでせう一つ市街整理委員でも置いて狹くしたら如何ですか（提議士）▲我が縣人會は久敷開催しないが氣候に於て誠に申分のない頃日家族會の會合を催す樣先覺諸彥に望む（兵庫縣人）▲昨春買つた烟草入これでなくてはと迄思つたのが見慣たので飽きが來た嘆も此りではあるまいか川柳子曰く『目についた女房此頃鼻につき』僕は矢張獨身で居らう（仁作）▲京城新聞は紙上に其名を掲けるが爲めに一段を用ひて居る朝鮮新聞に比べると三倍以上で四十行計り餘計に費して居る只さへ狹い紙面僕は惜しいと思ふ（はの字）▲廿四日（日曜日）投書を持參せられた方より右投書何れへか紛失したるに依り今一度投書せられたし（係）▲貴紙の吉凶鏡が一番明瞭して能く參考と相成申候倍々御奮勵の程奉願候却て大韓紙には易斷の解答有之候が何卒貴紙にも人員を限りて御判斷の御掲載被下候譯には參らず候哉●三一●館の方へ一應御照會の勞を煩し度候（放浪生）▲委細承知仕候早速相談致すべく候（係）▲支那町の通りを昨夜通りたらチウ〳〵と鼠鳴きをされたので大變極りが惡るかつた初心の者に彼んなことをするのは罪だよ（月の家）▲本町通りは瓦斯管の埋設工事で大變な騷ぎだ陰で僕等は遠廻りをしなければならないや（車夫）▲昨日龍山本町通りの或る家では往來傍で犬を番はして居たが由來人の黑山であつた何も其れを見るので人に珍らしいことではあるまいに、股を出しても失禮とか無禮とか云ふ癖に態々犬の番ふのを立つて見て怪しまぬとは呆れたものだよ（通行人）▲君も立つて見た一人か（小僧）▲猛犬に噛受けたし又猛犬の乳兒を鉄方條鎖の方はなきや仕方てゝ下されば相當報酬を出すこと勿論なり（狂子）▲京城の商人は何うも無愛想ですな私の如に氣の弱いものは閉口する『今日は』と云つて這入るのに直ぐと『何んの御用』と來る用が辨ずれば夫れで文句はない樣な者の飯の菜に味の素計りでは濟まんさ同樣少しは加藥も欲しいもんだよ（土百姓）▲五十錢の金を年五分の重利で二千年間預けて置くと其の金高は非常に巨額で之を金塊に直すと地球程の塊が一億五千萬個出來ると云ふ若し是が諸君の所有であつたら如何に處分せらるゝか（夢想兵衛）

韓國銀行株買入

京城新報社内

●天氣豫報（自廿六日午後六時至廿七日午後六時）

北西の風少雨後曇

●福井茂兵衛優

右は記事輻輳に付本日丈け休載

●定價
▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月
前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月金
拾錢
●新聞廣告料
▲五號活字十九字詰一行一圓五十錢▲特別
▲五號活字十九字詰一行金六十錢
發行兼編輯人 高木久馬
印刷人 城久神一郎
京城西署西小門通